

# 事業概要

## 2012



国土交通省 北陸地方整備局

Niigata National Highway Office

# 新潟国道事務所

〒950-0912 新潟市中央区南笹口2-1-65  
TEL : 025-244-2159 (代表)  
URL : <http://www.hrr.mlit.go.jp/niikoku/index.html>

[にいこく](#) [検索](#)

平成24年11月作成

## 主要事業

NIIKOKU

### 7 国道7号 紫竹山道路

紫竹山道路は、国道7号の交通渋滞緩和、交通事故削減、広域交通と都心地区の連携強化等を目的とした事業です。

栗ノ木道路と一体となった整備により、安全で円滑な交通が確保されるとともに、政令市新潟の新しいまちづくりの支援に寄与することが期待されます。



起点・終点	新潟県新潟市中央区鏡～同市同区紫竹山四丁目
延長	0.7km
幅員	5.0-3.0-2.0-6.5-3.5-7-6.5-2.0-3.0-5.0(69.7m)
構造規格	第3種第1級(高架部) 設計速度60km/h
事業の経緯	平成23年度 事業化

### 7 国道7号 栗ノ木道路

栗ノ木道路は、国道7号の交通渋滞緩和、交通事故削減、広域交通と都心地区の連携強化等を目的とした事業です。

紫竹山道路及びJR連続立体交差事業と一体となった整備により、安全で円滑な交通が確保されるとともに、政令市新潟の新しいまちづくりの支援に寄与することが期待されます。



起点・終点	新潟市中央区沼垂東2丁目～新潟市中央区鏡
延長	1.4km
幅員	5.0-3.0-2.0-7.0-6.0-20.5-6.0-7.0-2.0-3.0-5.0(66.5m)
構造規格	第3種第1級(高架部) 設計速度60km/h
事業の経緯	平成19年度 事業化 平成20年度 用地着手

### 7 国道7号 万代橋下流橋

万代橋下流橋は、国道7号の交通渋滞緩和、交通事故削減、広域交通と都心地区の連携強化を目的とした事業です。

本事業の整備により、安全で円滑な交通が確保されるとともに、政令市新潟の新しいまちづくりの支援に寄与することが期待されます。

【平成25年度 全線供用予定】



起点・終点	新潟市中央区西堀前通10番町～新潟市中央区万代島
延長	1.5km
幅員	橋梁部：5.0-1.5-1.5-10.5-3.0-10.5-1.5-1.5-5.0(40.0m) 街路部：5.0-1.5-2.0-7.0-4.5-7.0-2.0-1.5-5.0(35.5m)
構造規格	橋梁部：第3種第1級 設計速度60km/h 街路部：第4種第1級 設計速度60km/h
事業の経緯	平成5年度 事業化 平成7年度 用地着手 平成10年度 工事着手 平成14年5月 株川岸通～万代島間(柳都大橋)4車線供用 平成18年度 東堀通～株川岸通間の改良工事に着手、西堀通～東堀通間の用地取得に着手 平成20年3月 東堀通～株川岸通間の平面4車線供用

### 8 国道8号 新潟地区交通対策

新潟地区交通対策は、新潟バイパス、新新バイパスにおける交通渋滞緩和と交通事故削減を目的とした事業です。

インターチェンジ改良等の整備により、安全で円滑な交通が確保されます。



起点・終点	北蒲原郡聖籠町藤崎～新潟市西区山田
延長	21.8km
構造規格	第3種第1級 設計速度80km/h
事業の経緯	昭和41年度 新潟バイパス 事業化 昭和60年12月 新潟バイパス 完成6車線供用 平成17年4月 弁天IC 新設 平成24年3月 逢谷内IC 新設

## 7 国道7号 新発田拡幅

新発田拡幅は、国道7号の新発田市街地における交通渋滞緩和を目的とした事業です。本事業の整備により、安全で円滑な交通が確保されるとともに、地域の発展に寄与することが期待されます。

【平成27年度 一部区間供用予定】



起点・終点	新発田市奥山新保～新発田市三日市
延長	5.8km
幅員	第4種第1級：4.5-1.5-2.0-7.0-3.0-7.0-2.0-1.5-4.5(33.0m) 第3種第1級：3.5-2.0-7.0-3.0-7.0-2.0-3.5(28.0m)
構造規格	第4種第1級 設計速度60km/h 第3種第1級 設計速度80km/h
事業の経緯	平成3年度 事業化 平成6年度 用地着手 平成15年3月 三日市交差点立体化 平成20年3月 舟入地区の新潟市方向の上り2車線供用 平成21年9月 舟入地区の村上市方向の下り2車線供用

## 8 国道8号 白根バイパス

白根バイパスは、国道8号の新潟市南区(旧白根市)市街地における交通渋滞緩和、交通事故削減、騒音、振動の改善を目的とした事業です。

本事業の整備により、安全で円滑な交通の確保と沿道環境の改善が図られるとともに、地域の発展に寄与することが期待されます。

【平成26年度 一部区間供用予定】



起点・終点	新潟市南区保坂～新潟市南区戸領
延長	5.9km
幅員	3.5-2.0-7.0-3.0-7.0-2.0-3.5(28.0m)
構造規格	第3種第1級 設計速度80km/h
事業の経緯	平成3年度 事業化 平成9年度 用地着手 平成12年度 工事着手

## 49 国道49号 阿賀野バイパス

阿賀野バイパスは、国道49号の阿賀野市街地における交通渋滞緩和、交通事故削減、騒音の改善を目的とした事業です。

本事業の整備により、安全で円滑な交通の確保と沿道環境の改善が図られるとともに、「新潟県東部産業団地」や「総合運動公園」等へのアクセスが向上し、地域の発展に寄与することが期待されます。



起点・終点	阿賀野市六野瀬～阿賀野市下黒瀬
延長	13.7km
幅員	高盛土部：2.0-7.0-3.0-7.0-2.0(21.0m) 低盛土部：3.5-2.0-7.0-3.0-7.0-2.0-3.5(28.0m)
構造規格	高盛土部：第3種第1級 設計速度80km/h 低盛土部(六野瀬～寺社)：第3種第2級 設計速度60km/h 低盛土部(寺社地先)：第3種第1級 設計速度80km/h
事業の経緯	昭和52年度 事業化 昭和54年度 用地着手(安田区間) 昭和56年度 工事着手(安田区間) 昭和60年度 阿賀野市六野瀬～阿賀野市寺社間 暫定2車線供用 平成15年度 用地着手(水原区間) 平成18年度 工事着手(水原区間) 平成18年11月 阿賀野市寺社地先 暫定2車線供用(安田区間全線暫定2車線供用)

## 49 国道49号 揚川改良

揚川改良は、国道49号の阿賀町津川～黒岩間における事前通行規制区間(連続雨量150mm)の解消、線形不良及び岩盤崩落の危険箇所の回避を目的とした事業です。

本事業の整備により、安全で円滑な交通が確保されます。

【平成24年度 全線供用予定】



起点・終点	東蒲原郡阿賀町津川～東蒲原郡阿賀町黒岩
延長	7.5km
幅員	2.0-3.5-3.5-2.0-2.5(13.5m)
構造規格	第3種第2級 設計速度60km/h
事業の経緯	昭和53年度 事業化 昭和63年12月 谷花地区2車線供用 平成12年度 工事着手 平成13年度 用地着手

## 日本海沿岸東北自動車道(朝日～温海)

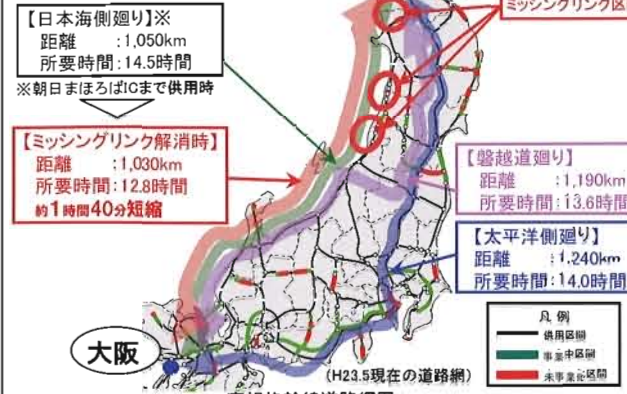
日本海沿岸東北自動車道は、新潟空港ICを起点とし、酒田市、秋田市を経て青森に至る、延長約322kmの高規格幹線道路です。

このうち、朝日まほろばIC～あつみ温泉IC間をはじめとした未開通区間が存在することにより、広域交通や地域生活について、様々な課題が存在しています。

### 新潟県北地域の課題

#### ①広域的な物流経路として不十分

日本海側廻りが最短距離ですが、時間的優位性がありません。

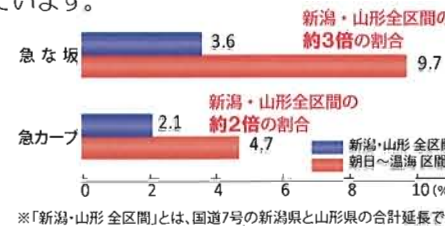


#### ②救急医療施設へのアクセス

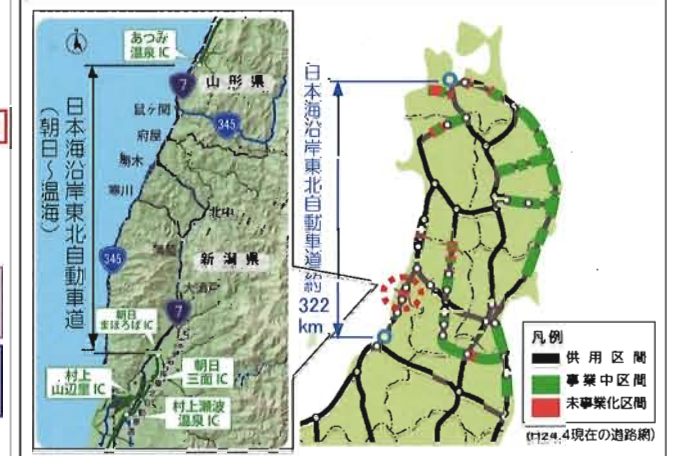
新潟山形県境付近において、第三次救急医療施設に60分で到達できない地域が広く分布しています(60分圏域外人口約1.3万人)。

#### ③交通事故の多発

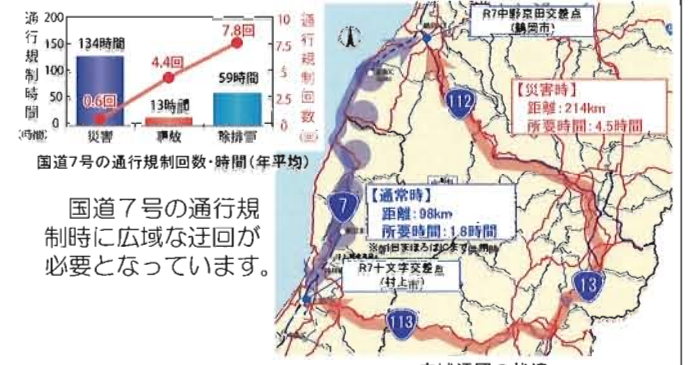
急な坂、急カーブが多く存在し交通事故の発生しています。また、冬期の積雪等により登坂不能等が発生しています。



### 日本海沿岸東北自動車道 朝日～温海



#### ④災害等の通行止め時に広域な迂回が必要



#### ⑤観光客数が減少傾向

平成17年より、平成21年にかけて県外からの観光客数が約1割減少しています(約25万人(H17)→約22万人(H21))。\*

これらの課題や、地域の目指す将来像を踏まえ、高速道路整備の目標を設定しました。

- 政策目標**
- ①最短時間で結ぶ災害に強い物流経路の確保
  - ②『いのちをつなぐ道』の機能強化
  - ③日常生活の安全性向上
  - ④リダンダンシーの確保
  - ⑤観光振興の促進

平成23年度に、国からA～Cの3つのルート帯案を提示し、地域や企業への意見聴取、第三者委員会の審議を踏まえ、Bルート帯による全線高速道路整備を決定しました。今後は都市計画・環境アセスメントを進めるための調査を実施していきます。

#### 【日本海沿岸東北自動車道(朝日～温海)間のルート帯決定】



## 交通安全対策

交通事故を減少させるために、交通安全対策を目的とした交差点改良事業や、歩行者や自転車が安全に道路を通行できるように、歩道及び自転車道の整備を推進しています。

### 事故対策事業推進箇所

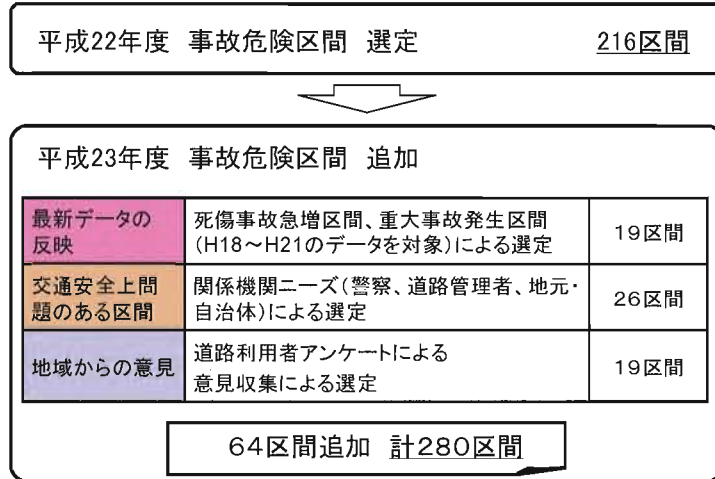
国道7号	高浜入口交差点改良(新発田市)	国道7号	上館地区交差点改良(新発田市)
国道7号	新潟港東港地区事故対策(聖籠町)	国道49号	姥ヶ山事故対策(新潟市中央区)
国道116号	分水地区事故対策(燕市)	国道116号	吉田西太田地区交差点改良(燕市)

### 歩道など整備推進箇所

国道49号	揚川歩道整備(阿賀町)	国道116号	法花堂自転車歩行者道整備(燕市)
国道116号	吉田下中野地区自転車歩行者道整備(燕市)		

### 事故ゼロプラン(事故危険区間重点解消作戦)

- ◆ 公共事業の効率性および透明性の一層の向上を図るため、交通安全事業では、データや地域の声に基づき事故の危険性が高い区間を事故危険区間として明確にし、公表する『事故ゼロプラン』の取り組みが全国的に行われています。
- ◆ 平成22年度よりスタートしたこの取り組みでは、新潟県内の直轄国道を対象に事故危険区間**216区間**を選定しました。
- ◆ 平成23年度には、最新の事故データの反映、交通安全上問題のある区間、道路利用者アンケートで得られた地域からの意見を踏まえ、「道路安全性検討委員会」において、**新たに64区間の追加**を行いました。
- ◆ 新潟国道事務所管内では123区間が選定されており、予算や事業実施環境(地元協力、設計や関係機関との協議の進捗状況、費用対効果等)を踏まえ、対策を行う区間・当面对策を行わない区間を選別し、順次対策を進めます。



道路安全性検討委員会開催状況(H24.1)



代表箇所における看板設置(新潟市西蒲区善光寺)

### 【改良事業例】

#### 国道49号姥ヶ山事故対策

- 姥ヶ山インターチェンジでは、市道とランプとの交差点が近接して連続していることから、渋滞が発生しやすく、この渋滞が本線まで影響し、事故発生の原因となっています。
- 本事業は、姥ヶ山インターチェンジランプの改良により、市道に降りる滞留長を確保し、本線とランプ分流部周辺での事故削減を図るものです。



## 道路の維持管理計画

国土交通省では、これまで地域ごとバラツキのあった、巡回、清掃、除草及び植栽剪定等の各作業について、通行の安全性に支障がないと考えられる範囲で、平成22年度より全国統一の基準を設定して運用しています。

北陸地方整備局では、全国統一の基準にもとづき、管内(新潟県、富山県及び石川県)で管理する国道の維持管理の頻度等について「道路の維持管理方針(案)」を定めたところです。この方針(案)に基づき、新潟国道事務所でも「維持管理計画(案)」を定め、運用を開始しています。今後、より適切な管理水準となるよう、定期的に計画を見直していきます。

道路の維持管理計画(案)は、以下のURLに掲載しています。  
<http://www.hrr.mlit.go.jp/nikoku/info/maintenance/pdf/policy.pdf>

【これまで】 平成21年度まで	【平成22年度より運用】
<巡回> ・平日毎日、休日2日に1回	・原則 2日に1回
<清掃> ・路面清掃 年間0~6回 ・歩道清掃 年間0~1回 ・排水構造物清掃 適宜	・原則 年間6回以内(DID内) 年間1回以内(上記以外) ・原則 落葉等の除去に限定 ・原則 年間1回を目安
<除草> ・年間 0~3回	・原則 年間1回
<剪定> ・高木、中木 適宜 ・低木 年間 0~1回 ・寄植 年間 0~2回	・高木・中低木 原則3年に1回程度 (樹種の生長速度等により適切な頻度を設定) ・寄植 原則1年に1回程度
<除雪> ・除雪 5~10cm降雪量で実施 ・凍結防止剤散布 20g/m <sup>2</sup> を標準	・5~10cmの降雪量を目安に出勤 ・散布量は20g/m <sup>2</sup> を目安 ・大雪時等の場合の早期出勤

### 主な維持管理項目



**巡回**  
主に道路パトロールカーの車内より、道路の異常、道路利用状況等を目視で確認します。



**剪定**  
植樹帯及び中央分離帯の植栽の繁茂により建築限界内に障害が発生することを防止するとともに、通行車両の視距確保及び植栽の適切な管理等のために実施します。



**路面清掃**  
路面清掃車による機械清掃を基本とし、通行車両に対する安全性の確保や沿道の美観のため、沿道状況に応じて実施します。



**橋梁補修**  
橋梁の定期点検結果に基づいて、橋梁ごとに修繕計画を策定し、計画的に補修等の対策を実施します。(写真は橋梁の床版補修状況)



**除草**  
法面等の雑草繁茂による建築限界内に障害が発生することを防止するとともに、通行車両の視距確保等のため、除草すべき箇所を抽出した上で実施します。



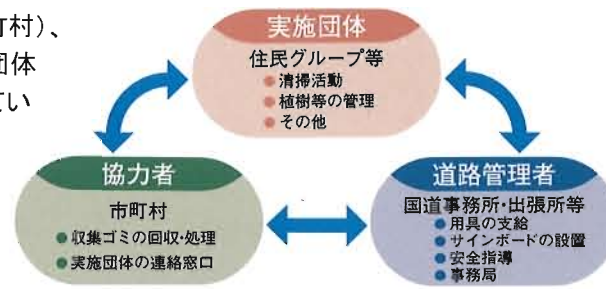
**除雪作業**  
新雪除雪は、原則として5cm~10cm程度の降雪量に達し、さらに降雪が続くことが予想される場合等、道路交通に支障をきたすおそれがある場合に実施します。(写真は多車線区間の除雪状況)

# ボランティア・サポート・プログラム

地域や企業の方々の、道路をいつくしみ、住んでいるところをきれいにしたいという気持ちに応え、実施団体や協力者(市町村)、道路管理者で協定を締結し、道路の美化清掃等を行う実施団体の活動に対し清掃道具の貸与等を行い、その活動を支援しています。



学校町通環境整備同盟会



# TOPIC 新潟バイパス『アンチエイジング・プロジェクト』

新潟バイパスは、新潟市の自動車交通を支える大動脈であり、その交通量は全国でも上位に位置しています。しかし、供用から既に38年を経過する区間もあり、引き続き幹線道路の機能を果たせるよう、バイパスの若返り及び抗老化対策を計画的に実施する新潟バイパス『アンチエイジング・プロジェクト』を推進します。

13万台/日を支える新潟バイパスが老朽化



平成23年度

- 黒埼I.C.～海老ヶ瀬I.C.間における構造物(橋梁除く)を損傷度により評価。
- 構造物(橋梁除く)の劣化原因別に補修工法のパターン化を検討。
- 構造物(橋梁除く)の点検マニュアル作成。

平成24年度

- 構造物(橋梁除く)の点検マニュアルを定期巡回で試行。

## 国指定 重要文化財 萬代橋

萬代橋は1929年生まれ！2012年で83歳。

明治19年に架設された初代萬代橋は、川西の新潟と川東の沼垂を初めて陸路で結び、今日の新潟市の基礎となる両町の合併に貢献しました。その後も新潟市のまちづくりの中心となって重要な役割を果たし、平成16年7月6日には、国の重要文化財に指定されました。

新潟のシンボルであり、日本の名橋でもある萬代橋は、今も新潟市民の橋として親しまれ続けています。

### ■ 萬代橋歴史年表

初代「萬代橋」(木橋) ●橋長430m(約782m) ●橋幅4間(約7.3m) ●工事費約33,800円 ●個人所有の有料橋	明治19 (1886)年 11月 明治33 (1900)年 4月 明治41 (1908)年 3月	工事完了、渡り初め 新潟県が買い取り、無料となる(買収費約15,900円) 新潟大火により半分以上が焼失
二代目「萬代橋」(木橋) ●橋長430m(約782m) ●橋幅4間2尺(約7.9m) ●工事費約126,800円	明治42 (1909)年 12月	初代の杭を利用して工事完了
三代目「萬代橋」(鉄筋コンクリート橋) ●橋長306.9m・橋幅(22.0m) ●工事費約2,400,000円	昭和4 (1929)年 8月 昭和10年代後半(1940頃) 昭和36 (1961)年 4月 昭和39 (1964)年 6月 昭和40 (1965)年 5月 昭和55 (1980)年 昭和60 (1985)年 8月 昭和61 (1986)年 6月	工事完了、渡り初め 第二次世界大戦により、照明灯や高欄の鉄橋などの資材提供 県道から国道へ移管 新潟地震により左右岸の取付道路、橋台等に被害 本復旧工事完了 萬代橋の耐震力調査実施 市民の募金によるライトアップ開始 社団法人照明学会東北支部長賞受賞 建設省第1回「手づくり郷土賞」受賞 初代から数えて「万代橋百年記念事業」 「名橋展」(福岡県福岡市)と兄弟橋縁組を結ぶ 「第1回新潟市都市景観大賞」受賞 万代クロッシングの工事中に旧萬代橋の基礎杭を発見 「三代目万代橋70周年記念事業」(温故知新・新潟新まちづくりワークショップ等) 「萬代橋協議会」設立 土木学会「推奨土木遺産」認定 「萬代橋75周年記念事業」着手(照明灯・橋側灯・橋詰広場復元等) 「重要文化財」指定 「重要文化財指定記念行事」開催



完成した三代目萬代橋(右は二代目)

# 新潟国道事務所のこれまでの取り組み

NIIKOKU

1973

## 新潟バイパス (交通量全国第2位)

時代を先取りした「インターチェンジ方式」を採用し、昭和60年に6車線化供用、全国第2位の交通量



1986

## 道の駅「豊栄」

昭和63年に一般国道初の道路情報ターミナルとしてオープン  
平成5年4月に道の駅として登録



1997

## 本尊岩・谷花地区防災対策

落石が発生する危険箇所に、落石検知装置や斜面パトロールなどによる監視や対策工の実施



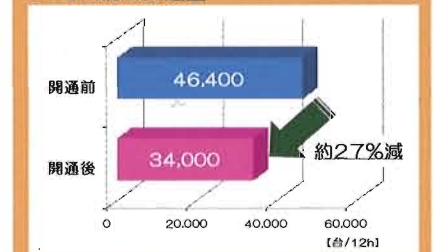
2003

## 柳都大橋

国道7号柳都大橋の整備より、萬代橋の交通渋滞が大幅に緩和



### ■ 萬代橋の交通量



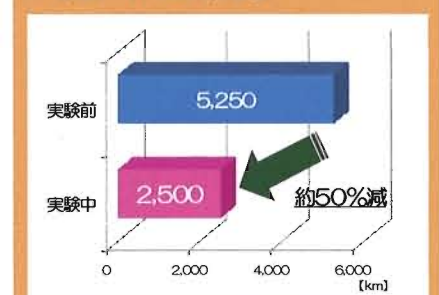
2003

## 阿賀野川ゆとり通勤大作戦 (全国初)

全国初の高速道路料金割引による渋滞緩和の社会実験



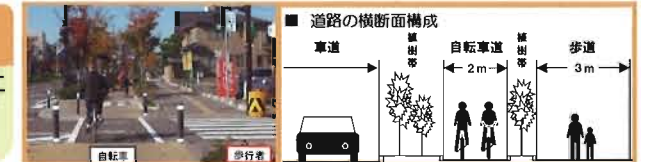
### ■ 新新バイパスの渋滞長



2003

## 自転車通行環境整備

新潟市古町入船地区(国道7号万代橋下流橋事業)において、歩行者と自転車が安全に通行できる環境を整備するため、通行帯を分離



2017

## 新規開通箇所

国道7号新潟バイパス逢谷内I.C.は、竹尾I.C.と海老ヶ瀬I.C.及びI.C.につながる道路の交通混雑緩和を目的に設置され、平成24年3月20日(火)に開通。  
開通により、海老ヶ瀬I.C.につながる道路と竹尾I.C.オフランプの右折交通量が減少し、竹尾I.C.の右折渋滞長及び右折通過時間が短縮



### ■ 竹尾I.C.新発田方向オフランプ渋滞の減少



### ■ 渋滞状況(竹尾I.C.オフランプ)

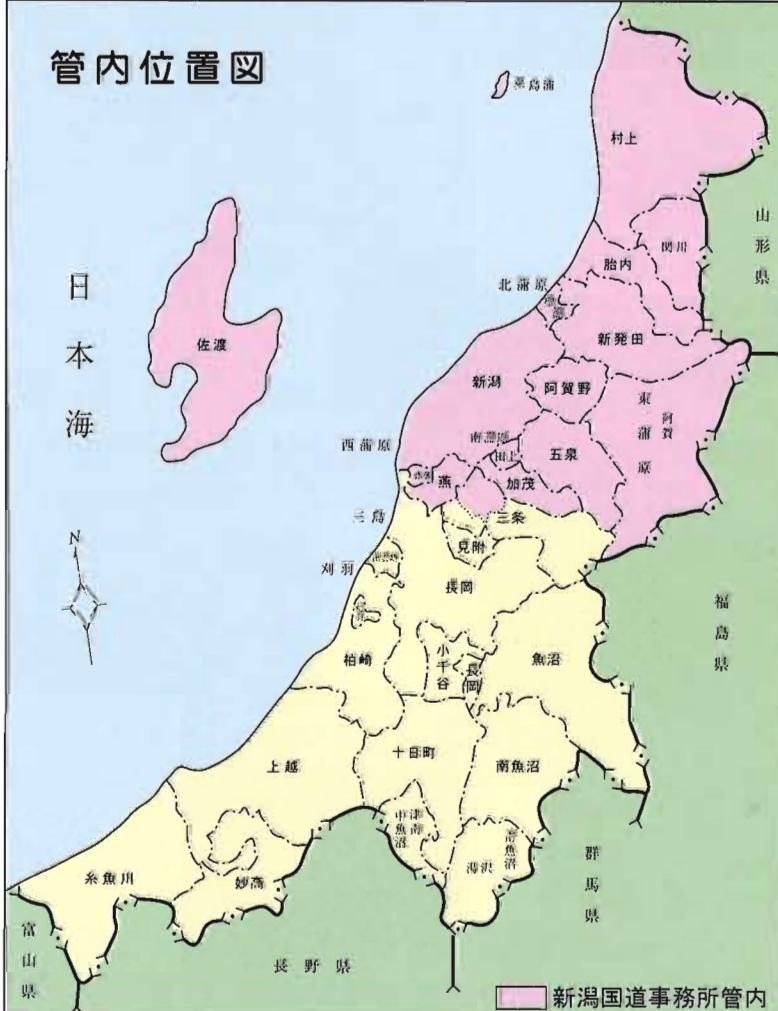
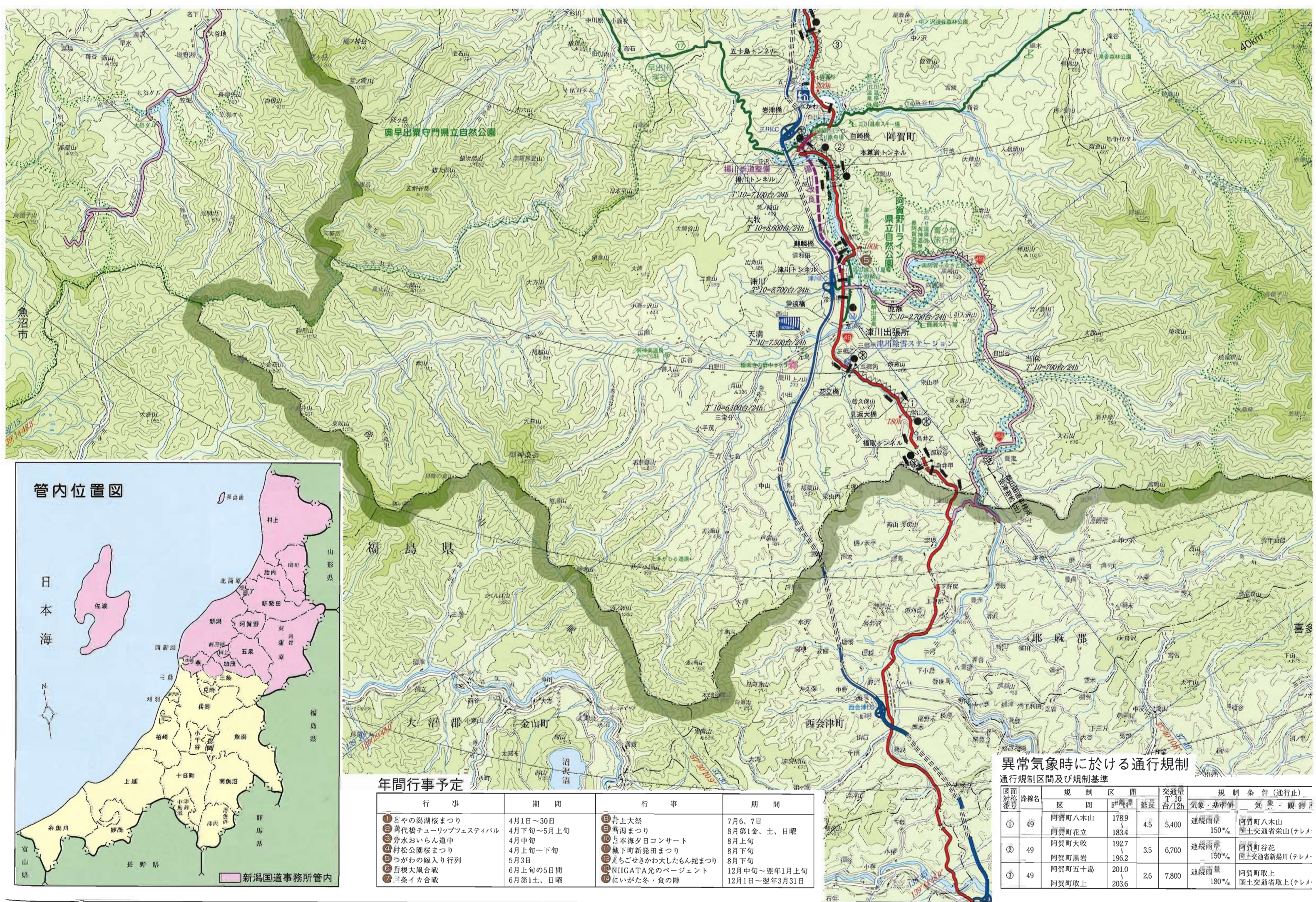


# 新潟国道事務所管内

1 : 150,000







### 年間行事予定

行事	期間	行事	期間
① どやの潟湖桜まつり	4月1日～30日	⑧ 村上大祭	7月6、7日
② 萬代橋チューリップフェスティバル	4月下旬～5月上旬	⑨ 新潟まつり	8月第1金、土、日曜
③ 分水おいらん道中	4月中旬	⑩ 日本海夕日コンサート	8月上旬
④ 村松公園桜まつり	4月上旬～下旬	⑪ 城下町新発田まつり	8月下旬
⑤ つがわの嫁入り行列	5月3日	⑫ えちごせきかわ大したもん籠まつり	8月下旬
⑥ 百根大風合戦	6月上旬の5日間	⑬ NIIGATA光のページェント	12月中旬～翌年1月上旬
⑦ 三条イカ合戦	6月第1土、日曜	⑭ にいがた冬・食の陣	12月1日～翌年3月31日

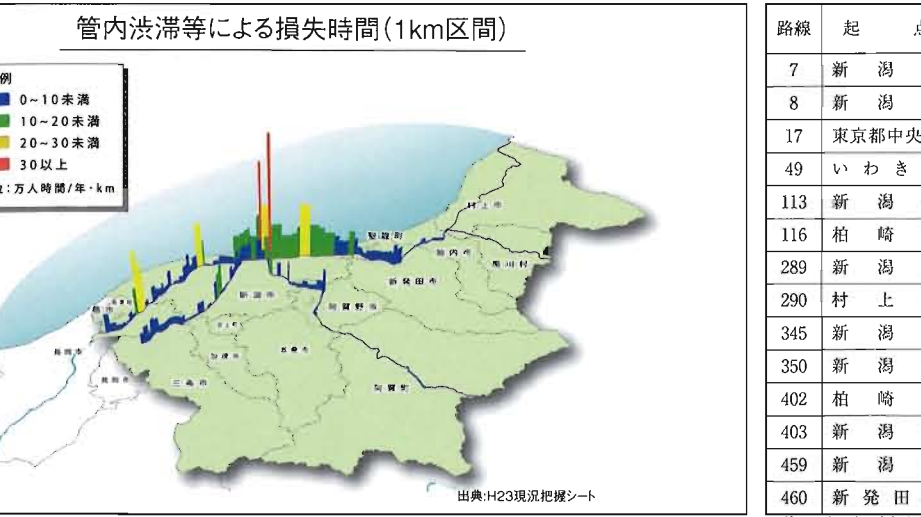
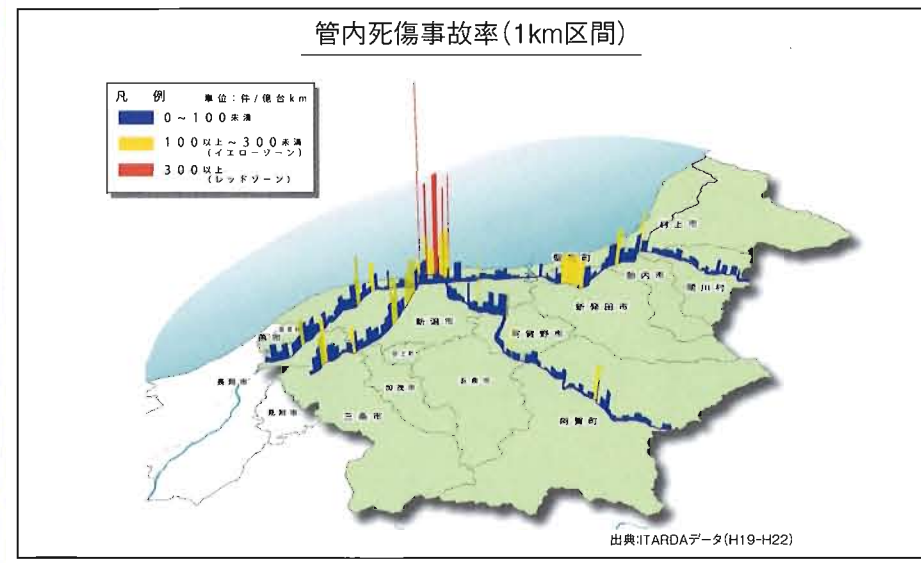
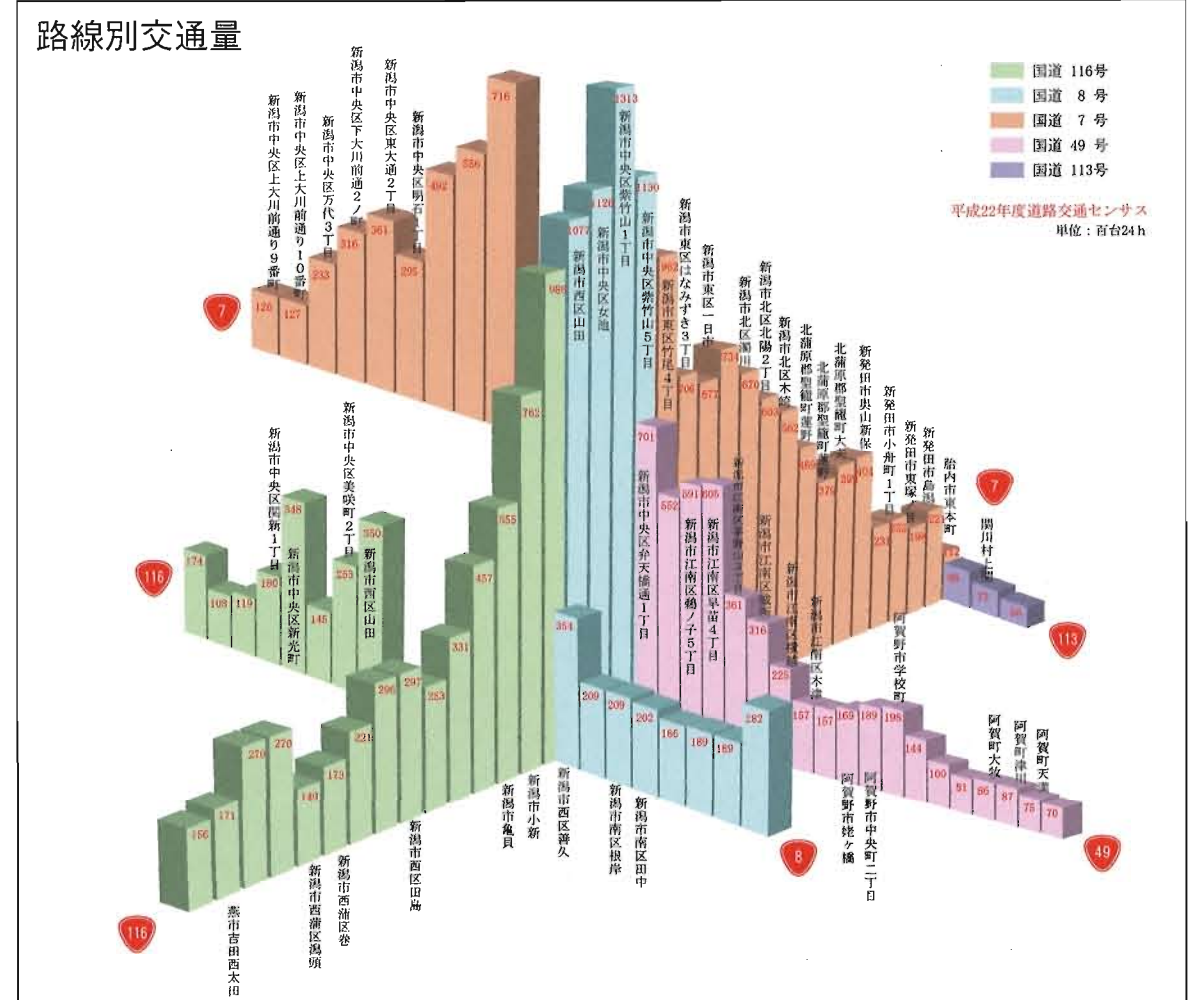
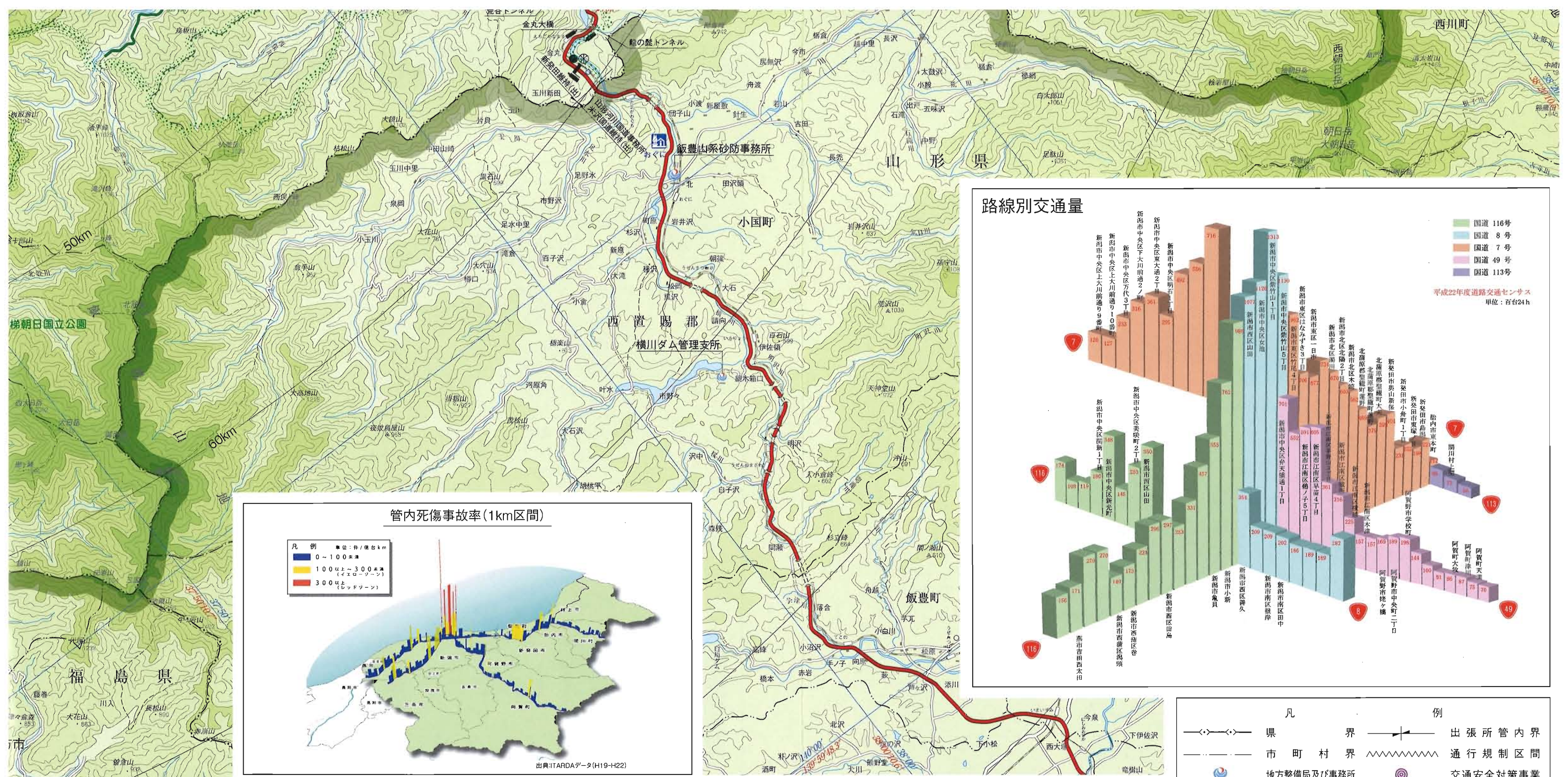
### 異常気象時に於ける通行規制

通行規制区間及び規制基準

区間番号	区間	距離	延長	交通量 T10 台/12h	規制条件(通行止)	
					気象・基準値	気象・観測所
①	阿賀町八木山	178.9	4.5	5,400	連続雨量 150mm	阿賀町八木山 国土交通省栄山(テレメ)
	阿賀町花立	183.4				
②	阿賀町大牧	192.7	3.5	6,700	連続雨量 150mm	阿賀町谷花 国土交通省新揚川(テレメ)
	阿賀町黒岩	196.2				
③	阿賀町五十島	201.0	2.6	7,800	連続雨量 180mm	阿賀町取上 国土交通省取上(テレメ)
	阿賀町取上	203.6				

この地図の作成に当たっては、国土院の承認を得て、同院発行の20万分の1地勢図を使用した。(承認番号 平24北使、第6号)

禁無断複製



### 一般国道延長

H22.4.1現在

路線	起 点	終 点	総延長 (km)
7	新潟市	青森市	551.5
8	新潟市	京都市	599.7
17	東京都中央区	新潟市	454.9
49	いわき市	新潟市	241.2
113	新潟市	相馬市	245.0
116	柏崎市	新潟市	78.9
289	新潟市	いわき市	307.1
290	村上市	魚沼市	166.6
345	新潟市	山形県遊佐町	220.3
350	新潟市	上越市	163.0
402	柏崎市	新潟市	117.1
403	新潟市	松本市	360.4
459	新潟市	福島県浪江町	267.0
460	新発田市	柏崎市	146.1

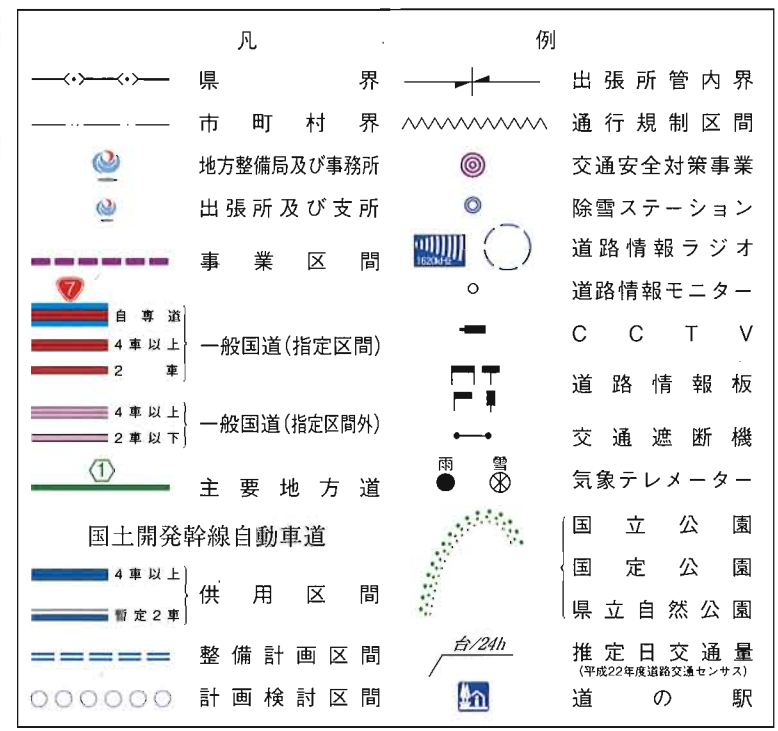
注: 道路統計年報2011による

### 出張所別管理延長

H24.4.1現在

路 線	事務所管理区間	管理延長 (km)	維持出張所別管理延長 (km)			
			新 潟	新 発 田	黒 埼	水 原
7	自新潟市中央区本町通7番町至村上市坂町	(1.253) 53.579	(1.253) 21.684	31.895	—	—
8	自新潟市中央区柴竹山至三条市土場	38.497	5.826	—	32.671	—
49	自阿賀町八ッ田至新潟市中央区柴竹山	65.831	10.897	—	—	54.934
113	自村上市坂町至岩船郡関川村大字金丸	25.865	—	25.865	—	—
116	自長岡市寺泊敦ヶ曾根至新潟市中央区本町通7番町	44.679	19.945	—	24.734	—
計		(1.253) 228.451	(1.253) 58.352	57.760	57.405	54.934

注: ( ) は内巻複線区間



### H24.4.1現在

危険内容	備 考
土砂崩落	雪崩の予想される場合通行止 (水原)
土砂崩落	雪崩の予想される場合通行止 (水原)
落石等	雪崩の予想される場合通行止 (水原)